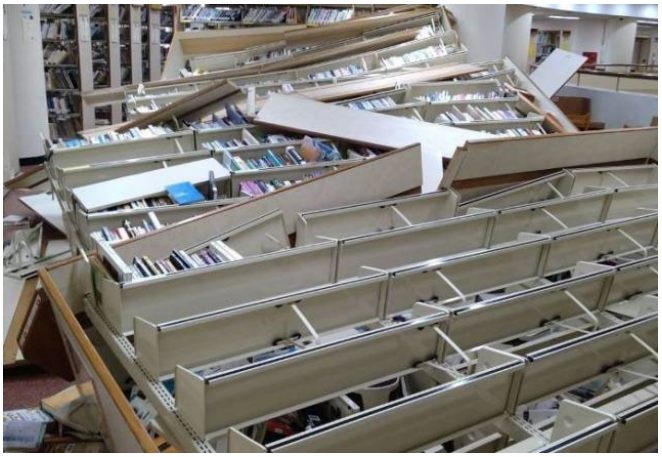
国立台湾師範大学　月例報告(4 月)

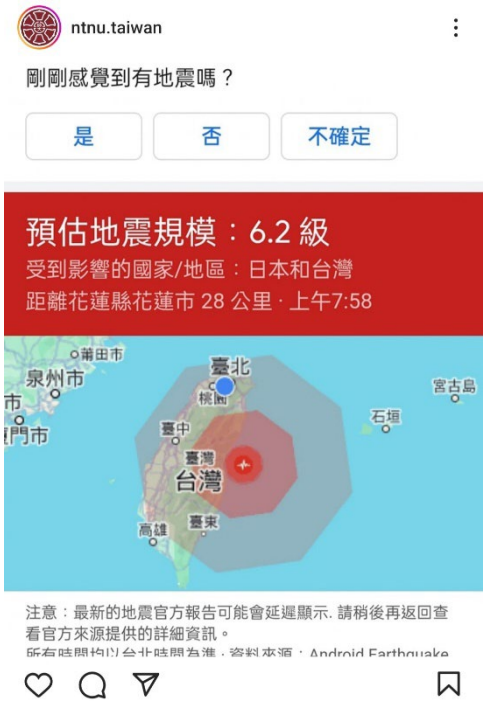
北川多万慧

【地震】

4 月 3 日に台湾の花蓮(ファリエン)で大きな地震がありました。揺れが大きかったので台湾全土で揺れを感じたそうです。何度かあったのですが、一番大きかったのは M7.2 でした。ちょうど寝ている時でした。また、私が住んでいる場所は 14 階であるため揺れをとても強く感じました。14 階だからこんなに揺れが大きいのだろうと思っていたのですが数字で見ても実際に大きかったので驚きました。花蓮では建物や観光地の太魯閣が被害を受けていました。震源の花蓮から台北は離れているのですが、古い建物は一部被害を受けているところもありました。師範大学は少し建物が古いため、教室の壁や校舎の外壁が崩れているところがありました。とくに、図書館や先生たちの研究室のある博愛樓は、本棚が倒れたり、建物やものの一部破損したりと危険なため終日立ち入り禁止になりました。



↑師範大学の図書館



【中間テスト】

四月の上旬に中間テストがありました。今回は、先生たちの都合や地震の影響等により学校で指定されているテスト期間が少し伸びました。そのため、準備が大変でしたが、結果を見ると前学期と比べかなり成長したなと実感することができました。

【授業】

様々な国の学生が一緒に授業を受けているため、授業では国ごとに文化や制度の違いについて先生に質問されます。日本のことについて質問されたとき、日本についての知識が浅く答えられないことがあります。特に政治の制度について質問され、上手く受け答えできなかった時は、少し恥ずかしかったです。また、台湾人の方が行ったことのある日本の観光地について説明してくれたのですが、全く知らない場所で、「あなた日本人でしょ、とても有名なのに」と言われました。もともと、日本についての理解が足りていないことは自分でもわかっていましたが、改めて知識不足だと思い知らされました。まず自分の国について理解していないと、文化交流は難しいと感じました。

【校外活動】

私は中国語を主に勉強する華語系という専攻です。その華語系の学生と先生たちで、宜蘭で校外活動をしました。宜蘭藝術文化中心(文化センター)という場所に行ったり、宜蘭餅を作っている会社に行き宜蘭餅を作る体験をしたりしました。

文化センターで偶然入ったお店の方がとても親切で気前のいい方でした。私たちが外国人だと分かると、色々質問してくれたり、商品の説明を丁寧にしてくれたりしました。また、私たちが 6 月に帰国することを知ると、商品をプレゼントしてくれました。台湾人は人に対してとても温かく親切だと改めて痛感しました。

宜蘭餅とは、宜蘭の有名なお土産の一つです。牛舌餅とも呼ばれています。クッキーのようなもので、牛舌はクッキーの見た目が似ていることが関係しており、味には関係ありません。どうして牛舌のようになるのか不思議に思っていたのですが、実際に作ることを経験して理解できました。楕円型にクッキーの生地を広げ、そのまま焼くと空気の逃げ道がなく、焼いている間に割れてしまいます。それを防ぐために中心に一本切り込みを入れます。そのため、牛舌のようになるというわけです。実際に体験することにより自分で理由に気付くことができ、とてもよい経験になりました。

↑焼く前の牛舌餅。よく見ると中心に線があります